

授 業 科 目 の 概 要

(心理学部心理学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎・ 教養科目	入門	心理学基礎ゼミナールⅠ	新入生の大学での学生生活が充実するようにするための少人数ゼミナールとする。教員と学生、学生同士の交流の中で、学習や生活上の知識やスキルについて学ぶ。	
		心理学基礎ゼミナールⅡ	心理学基礎ゼミナールⅠに引き続き、学生生活が充実するようにするための少人数ゼミナールとする。教員と学生、学生同士の交流の中で、学習や生活上の知識やスキルについて学ぶ。	
	情報 処理	情報処理演習（インターネット）	現在、多くの情報が電子情報として利用されており、現代社会を生きる我々にとって、インターネットを利用した基本的な情報収集や情報発信の知識を必ず習得しておかなければならない。本演習では、インターネットに関する基礎知識、電子メールのアカウント設定・操作方法、WWWを用いた情報検索・情報収集、簡単なWebページの作成方法などを中心に学習する。3回の演習レポートをすることによって授業内容の理解を深めていく。	
		情報処理演習（文書作成）	近年インターネットや電子メールなどメディアの発達によってコミュニケーションの場が多様化し、ことばはますます重要になってきている。そこで、本授業では一般社会で通用するコミュニケーション能力の育成を目的とする。口語と文章語など、語彙の感覚を身につけるとともに、上手な文の組み立て方を学習する。また、手紙やさまざまな文章の形式を学び、実践する。	
		情報処理演習（表計算）	大学の授業における基礎的なデータ集計作業のツールとして、パソコンの表計算ソフト（エクセル）を使用することが多い。この授業では、表計算ソフト（Microsoft Excel）の基本的なしくみと特徴（関数・計算・グラフ・データベース等）を紹介しながら、表計算ソフトExcelを用いたデータ処理に関する演習を行うことにより、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。	
		情報処理演習（プレゼンテーション）	魅力的なプレゼンテーションを作成・実行する能力は、学習の上でも仕事の上でも大変重要である。本授業では、まずプレゼンテーションに関する基本的な理解を深め、その主要なツールのひとつであるMicrosoft Power Pointの基本操作方法について学習し、簡単なプレゼンテーション資料を作成する。次に、プレゼンテーションのテクニックについても学ぶ。最後に作成したプレゼンテーション資料に基づいて、発表を行う。	
	語学	日本語Ⅰ（留学生向け）	文章表現ルールを整理していくことで、既習文法や文型を正確に使えるようにしていく。自分らしい言葉や表現を探りながら、まとまった文章が書けるようにしていく。課題に関して意見や考えを発表し、質疑にも的確な応答ができるようにしていく。	
		日本語Ⅱ（留学生向け）	文法学習を中心に、実践的な練習問題に取り組む。類似表現や使い方を間違えやすい表現を整理することで、正確な日本語が使えるように練習していく。グループ討議や作文に取り組み、日本語運用能力を高めていく。	
		日本語Ⅲ（留学生向け）	新聞記事や評論文を読み、日本社会について考え、論理的なレポートが書けるようにする。また、それを基にスピーチをする。聞き手の印象や感情に配慮したコミュニケーション能力を身に付ける。日本語能力試験N1合格に照準を合わせ、漢字・語彙・文法をより強化していく。	
		日本語Ⅳ（留学生向け）	自分でテーマを探して調査、考察、発表をする。母国語で書かれた新聞記事や随筆等を日本語に翻訳する練習をする。日本語能力試験N1合格に照準を合わせ、漢字・語彙・文法をより強化していく。	
		英語Ⅰ	社会人として必要とされる程度の英語力を身につけるための基礎として、日常生活でよく使う単語を各授業で取り上げ、コミュニケーションへと繋げていく。また、必要に応じて文法の指導や英文のリーディング及びライティングの指導を行う。	
		英語Ⅱ	英文を速読するための知識・技術の向上を図る。一定量の英文の内容に関してポイントを解説した後、出来るだけ早くパラグラフ・リーディングを行ってゆく。毎回演習問題を宿題として課す。訳読も行うが、様々な種類の英語の文章を出来るだけ効率的に読むための訓練を行うことをあくまでもこの科目の主眼とする。	

基礎・ 教養科目	基礎科目	語学	心理学ビジネス英語Ⅰ	リスニングとライティングを中心に、ビジネスの世界で必要とされる英語の運用力を養成する。リスニングでは、さまざまなビジネスシーンや話題を取り扱った実用的な会話を聞いて、ビジネス英語特有の表現や語彙を身につけ、ライティングでは、ビジネスレター・電子メール等で用いられる文体や形式などの基礎知識を養う。また、授業で学習したことに基づき、会話練習も行う予定。	
			心理学ビジネス英語Ⅱ	心理学ビジネス英語Ⅰに引き続き、リスニングとライティングを中心に、ビジネスの世界で必要とされる英語の運用力を養成する。リスニングでは、さまざまなビジネスシーンや話題を取り扱った実用的な会話を聞いて、ビジネス英語特有の表現や語彙を身につけ、ライティングでは、ビジネスレター・電子メール等で用いられる文体や形式などの基礎知識を養う。また、授業で学習したことに基づき、会話練習も行う予定。	
			心理学英語文献演習Ⅰ	英文を正確に和訳するための知識・技術の向上を図る。一定の量の英文の内容に関してポイントを解説した後、重要な構文を含む文章を中心に訳出してゆく。毎回演習問題を宿題として課す。英文雑誌や大学院入試における過去の英語の問題を主な教材としながら、アカデミックな英語にできるだけ慣れるように多くの文章を読みこなしてゆく。	
			心理学英語文献演習Ⅱ	心理学英語文献演習Ⅰに引き続き、英文を正確に和訳するための知識・技術の向上を図る。一定の量の英文の内容に関してポイントを解説した後、重要な構文を含む文章を中心に訳出してゆく。毎回演習問題を宿題として課す。英文雑誌や大学院入試における過去の英語の問題を主な教材としながら、アカデミックな英語にできるだけ慣れるように多くの文章を読みこなしてゆく。	
	教養科目	社会の理解	社会学	「人は一人では生きていけない」——このテーマは、文学作品や音楽などあらゆる表現媒体において古くから扱われてきたが、それは人文科学・社会科学と分類される諸学問の究極のテーマでもある。社会学という学問は、社会的な生物である人間の「社会的な」という部分にフォーカスを合わせ、人間（たち）を観察し、分析し、人間社会における法則性を発見しようという学問と言える。この授業では、社会学という学問が生まれるにいたった背景から話をはじめ、学生皆さんの多くが共通に経験した、またこれから経験するであろう社会について概説する。また、現代社会の問題について、社会学の観点からの指摘を紹介する。これによって、「社会学的なもの見方」を理解することを授業の目的としたい。	
			法学	社会・経済生活や相談援助活動における法の役割・機能を念頭に、憲法・民法・刑法・行政法などの基礎知識について概説する。法を初めて学ぶ者のために、法の主要領域（憲法・民法・刑法・行政法など）から実例を挙げながら、法の基本的な原理・原則および構造ならびに、各法領域の学習の主要な部分を占める法解釈学に必要な基礎技術・技法および基礎知識を概説する。	
			経済学	本授業は、新聞・テレビ・インターネット等のメディアで報道される社会の事象から出発して、広い意味での「経済」（政治、官僚、民間など）が私たちの生活に与える影響について学ぶ。	
			経営学	この講義では、心理学部の学生が、経営学の基本的な知識を学ぶことによって、ものごとの経営学的な見方、とらえ方、考え方を身につけることを主眼としている。そのために、身の回りにあるたくさんの教材を紹介することからはじめ、会社・企業・経営の概念、経営理念と経営者の役割、株式会社や持分会社の特徴、会社法、経営管理、経営戦略、さらに昨今重要性を増している企業の社会的な責任と企業倫理、及びコーポレート・ガバナンスにいたるまで、それらを分かりやすく教授する。	
地域文化論			総論では「文化とは何か」について述べた上で、比較文化論的な視点から日本文化の大づかみな特徴を述べる。各論では、山口県及び宇部市の文化をはじめとする日本の文化のさまざまな側面をとりあげて、文化との関連で日本社会の構造的な特性を理解してもらうようにする。		
ジェンダー・人権論			判例の展開に留意しながら、日本国憲法の基本原理ならびに基本的人権（包括的基本権、平等権、自由権、参政権、社会権）について概説する。また、子どもの権利やジェンダーに関する諸問題についても考える。		

教養科目	社会の理解	時事問題講読 I	ディプロマポリシーのうち、「知識の応用力と判断力」を高めるための演習です。最初の1、2回はビジネスの各分野（例えば、エネルギー、車、宇宙、農業、AIなど）の現状と将来性について概要を説明する。3回目より時事問題で各自が興味をもったテーマを選んでエビデンスに基づいてプレゼンテーション（そのテーマの現状と将来性）を行い、議論を通じて認識を深める。なお、エビデンスについては、新聞やネットの情報を使って、参考となる統計値などを用いて、作成する。加えて、各分野の将来性については心理面からのアプローチについても言及する。 授業の評価は、エビデンスの作成、プレゼンテーション能力、議論への積極的な参加について評価する。	
		時事問題講読 II	最初に（第1回）、Iの取り組み状況と達成度について議論を通じて理解を深めた上で、IIの取り組みを始める。Iの取り組みをさらに掘り下げた内容を盛り込んで、エビデンスを作成し、プレゼンテーションを行い、議論を通じて時事問題への考え方、対処法について学修する。この授業終了時には、ディプロマポリシーのうち、「知識の応用力と判断力」が高まっていることを目標とする。 授業の評価は、エビデンスの作成、プレゼンテーション能力、議論への積極的な参加について評価する。	
基礎・教養科目	自然の理解	生物学	生物学は急速な進展を続けており、その成果として遺伝子組換え作物や新薬の創出、遺伝子診断、着床前診断にみられるように、従来に増して格段に我々の生活に大きな影響を与えるようになってきている。本講義では、高校までの生物をベースに、生体の持つ機能や遺伝の仕組み、生命を維持する機構、生物の多様性、進化等について学ぶ。	
		健康科学（食と健康）	(概要)本講義では、健康の定義を明らかにし、生涯を通して健康なライフスタイルを確立するための方法を考えさせる。本講義では、食および運動と生活習慣病との関連を中心に取り上げる。食と健康の関係を、栄養学および食品学の観点から考察して食生活の重要性を理解させる。また、健康の維持・増進における運動の重要性を運動生理学の観点から概説し、運動と栄養との係わりおよび有効な運動の実践方法を理解させる。	オムニバス方式
		人体の構造と機能及び疾病	人体の構造や機能および器官の生理機能について概説する。さらにさまざまな疾病について概観したうえで、健康の維持・増進のための、保健・医療・福祉の連携および医事法制に関する必要性と重要性についても概説する。	
		地球の環境	この科目はディプロマポリシーのうち、「人への関心と学問の理解」を達成するために「諸科学への興味関心と理解」を深める授業です。この授業は、受講者が地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をしていきます（社会科学系も含んでおり、文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を意識することです。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待している。	
		統計学	この科目はディプロマポリシーのうち、「柔軟な思考と表現力」を身に付けるために、また「心理学の基礎的思考方法」を学ぶための授業です。 授業ではまず、統計学の歴史について深く学び、統計学や確率の歩んだ道を振り返ってみる。その上で、統計学の様々な用語を理解して統計学を将来の仕事の道具として使いこなせるようにする。統計学は現状把握と予測のためと見られているが、じつは限られたデータを使って全体の因果関係を探る学問です。統計学を通じて得た情報から「ピンとくる」カンを働かせるのに大いに役立たせてください。 到達目標は、統計値の科学的意味を的確につかむ、グループ討議を通じてコミュニケーション能力を高めることです。	
		脳科学	人間理解の可能性と脳科学が果たす役割について学び、ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能局在について理解を深めることを目標とする。歴史的経緯を踏まえつつ臨床症例や研究知見を神経科学的手法（脳波・fMRI・TMS・PETなど）とともに紹介する。	
教養科目	人間の理解	文学	日本近代文学の中からいくつか作品を取り上げ、その魅力を味わうとともに、文学作品としての価値について考える。また、文学作品を通じて、人の人生や生き方、考え方などを学び、豊かな感性を磨く。	
		哲学	歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を支軸にして講義を展開する。 (1)自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。 (2)ものごとを広く（多面的に）深く（根源的に）考えることの意味と意義とを理解する。	

教養科目	人間の理解	倫理学	倫理学は、道徳的行為や性格の「正しさ」や「善さ」の根拠を、できるだけ合理的かつ哲学的に問う学問である。本授業では著名な哲学者・宗教家の思想を取り上げ、倫理学の基本的な考え方を紹介すると同時に、現代の応用倫理学も考察する。	
		対人関係論	社会に生きる人間にとって不可欠な要素である対人関係について、認知心理学、社会心理学、発達心理学の立場から概観する。社会的動物としての人間の行動的基礎について学ぶことを通して、生活の質の向上のために配慮すべきことについての洞察を深める。	
		文化人類学	自分にとっての「当たり前」がまったく「変なもの」扱いされるといふ、文化人類学の長期フィールドワークをアクティブラーニングで追体験することを通して、すべての異文化が対等な存在価値をもつのだという「文化相対論」を体得させる。異文化に接するモラルと、世界を「ヘイト」から解放しうる「実践的寛容」を身につけることを目指す。	
基礎・教養科目	コミュニケーション科目	日本語表現法演習Ⅰ	近年インターネットや電子メールなどメディアの発達によってコミュニケーションの場が多様化し、ことばはますます重要になってきている。そこで、本授業では一般社会で通用するコミュニケーション能力の育成を目的とする。口語と文章語など、語彙の感覚を身につけるとともに、上手な文の組み立て方を学習する。また、手紙やさまざまな文章の形式を学び、実践する。	
		日本語表現法演習Ⅱ	論説文の力をつけることをめざす。文の要約と推敲の練習をする。文章力を身につけ、大学生活における学習に必要なレポート作成の要領をつかむことを目的とする。(キーワード:文章語,文章構成)	
		日本語表現法演習Ⅲ	テキストとの対話を通して、特に「読む」「書く」能力を磨く。現代社会の諸問題に関心を持つために、新聞スクラップを行う。また、2冊以上の図書をくらべ読みすることによって、客観的な論理展開の文章を書く方法を学ぶ。また、演習を通して就職活動に有効な言語表現を学ぶ。	
		日本語表現法演習Ⅳ	目的にかなった文章を書くこと、話すことは、社会人として大切なことである。本授業では、言語表現を豊かにしていくことによって、将来、社会に踏み出す学生として必要な基本的な表現法(社会人としての会話、敬語の使い方、自己紹介や挨拶の仕方などといった話し方や小論文の作成方法、手紙文・ビジネス文章の作成方法など)を習得していく。	
		異文化コミュニケーション論	異文化への理解を深めながら、多様な文化を持つ人びととコミュニケーションするための方法を学ぶ。また多文化共生の立場から、地域に住む多様な人々が良好な関係を築き、それを維持するために重要なことについて、主体的に考えを深めていく。	
		コミュニケーション論	(概要)保健・医療・福祉および学校保健の現場で言語・非言語コミュニケーション活動を展開するにあたって、コミュニケーション論を基本にして、他者との人間関係における自己表現方法を学ぶ。また、援助に必要なカウンセリング概念と基礎的な技術と理論的な背景についてロールプレイと講義を組み合わせる学習する。	オムニバス方式
		表現アートセラピー演習Ⅰ	表現アートセラピーとは、様々な表現(絵や粘土、コラージュ、ダンス・ムーブメント、声や音楽、ドラマ、ライティングなど)を用いる統合的芸術療法である。アート表現は、人の持つ可能性を賦活するものとして近年注目されている。この科目では、表現アートセラピーがどのような療法であり、どのような特徴を持つのかについて全体像をつかむ。テキストの実例から表現アートセラピーの実際について学び、心理的成長のプロセスを理解し、自己の心理的成長について考える。	
		表現アートセラピー演習Ⅱ	対人援助は、人間関係のプロセスそのものと言える。相手を理解し共感するためには、まず自己理解が必要となる。この授業では、表現アートセラピーを通して自己の内面を見つめ、自己理解を深め、他者との共感的コミュニケーションを体験的に学ぶ。また芸術療法の基礎、パーソンセンタード表現アートセラピーの理論と実践を学ぶ。演習・実習を通して、いかに自由で安全な場を提供するかについて学んでいく。医療(精神科、高齢者)や教育における適用例も概説する。	
		フィールドスタディⅠ	地域におけるボランティアの意義と実情について講義および演習形式で学び、現代社会におけるボランティアセクターの重要性について理解することを目的とする。また、実際の活動を行っている方から直接話を聞く機会も設ける。	
		フィールドスタディⅡ	フィールドスタディⅠに引き続き、地域におけるボランティアの意義と実情について体験的に学び、現代社会におけるボランティアセクターの重要性について理解することを目的とする。さらにボランティア活動に参加し、活動を通して得られた学びを発表する。	
フィールドスタディⅢ	フィールドスタディⅡに引き続き、地域においてボランティアを実践することで、地域におけるボランティアの意義と実情について体験的に学び、現代社会におけるボランティアセクターの重要性について理解することを目的とする。継続的にボランティア活動に参加し、演習を通してボランティアの意義について検討を行う。			

基礎・教養科目	キャリア科目	キャリアデザインⅠ	大学に入学をして、あなたは何をしたいのか？4年間をどのように過ごすのか？4年後に卒業をし、社会に出る、又は、大学院進学に向けての進路選択活動をするため、これからの自分の大学生活をデザインすることを目的とする。グループワーク・グループ演習などを通して、他者とのコミュニケーションをはかり、同時に、自分の思い、他者への思いを深めていく。	
		キャリアデザインⅡ	大学卒業後の職業選択に関する基礎的な事項について理解を深める。また、社会人・職業インタビューの実施、発表を通して、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力に磨きをかける。	
		キャリアデザインⅢ	将来の進路を見据え、不足している能力や知識を認識し、主体的にその能力や知識の習得に取り組む。グループワークを通して、自己理解を深めると同時に、スピーチ、プレゼンテーションなどを通して、社会人基礎力を育成する。	
		キャリアデザインⅣ	キャリアデザインⅠ～Ⅲの総仕上げとして、自身の目指す進路を明確にし、就職や進学に向けての活動を計画・実行する。実行内容を振り返る個別の機会を設け、次の実践に活かしていく。	
		インターンシップⅠ	インターンシップとは、「学生が企業や行政機関などの職場において、就業体験を通じて勤労観や職業観を高めるための制度」である。インターンシップでは、学校にはない実際の現場を教育の場として利用し、教室で学習したさまざまな知識を実際に応用するための機会を提供する。本学のインターンシップでは、学生自身に将来の職業適性を考える機会を与え、社会人として必要な責任感や自立心など将来の職業人としての心構えを養う。	
		インターンシップⅡ	インターンシップⅠに引き続き、複数領域での職業体験を積むことにより、職業理解を深め、職業適性について自己理解を深めることを目的とする。	
		インターンシップⅢ	インターンシップⅡに引き続き、複数領域での職業体験を積むことにより、職業理解を深め、職業適性について自己理解を深めることを目的とする。さらに、自己の将来の職業選択とキャリア形成についてもインターンシップ体験をもとに考察していく。	
専門科目	学部共通	心理学概論Ⅰ	本講義では、心理学の歴史・成り立ちと、人の心の基本的な仕組み及び働きについて学び、科学としての心理学を正確に理解することを目的とする。心理学の基礎を形成するための科目で、「心理学概論Ⅱ」と強く関連している。	
		心理学概論Ⅱ	心理学は「基礎心理学」と「応用心理学」の2領域に大別される。基礎心理学の領域では、こころのメカニズムの法則や理論を探求する。それらを実際の問題解決に役立てたり、広く社会への応用を図るのが応用心理学である。本講義では、臨床や教育、産業、司法などの領域で、基礎心理学がどのように応用されているかを理解することを目的とする。	
		ビジネス心理学概論	(概要)ビジネス心理学は、企業を中心とする様々な組織で働いている人々の行動や経営活動について、心理学の考え方を応用、活用して問題解決を図っていかこうとする学問であり、企業で働く人々の誰にでも役立つ実践的な心理学といえる。この講義は学部基礎科目であり、人間行動にかかわる心理学の知識と技術をいかし、人と人、人と集団、集団と集団の相互作用のなかで経営の諸資源を有効に活用して行う活動(ビジネス)において、基礎的な知識を充分獲得しビジネスの現場で有効な活動を展開できる能力を習得させることを目的とする。4名の教員がオムニバス方式で行い、各教員がそれぞれの専門の立場から講義を行う。学生の興味を引き起こし2年次以降の専門科目に導入する1年次の重要科目の一つである。	オムニバス方式
		健康・医療心理学	(概要)健康心理学は人間の病的な側面だけではなく、心身両面での健康の保持・増進、疾患の予防を取り扱う比較的新しい分野の心理学である。本講義では、健康心理学の基盤となっている心理学理論を概観し、ストレス、運動、リラクゼーション法などが健康にどのように影響を与えるのかを学ぶ。授業は8回までに健康心理学の基本的な内容について解説し、その後は、セルフケアとしてよく用いられる技法について体験学習を行う。	オムニバス方式
		福祉心理学	(概要)本授業では①福祉現場において生じる問題及びその背景、②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援、③虐待についての基本的知識について学ぶ。	オムニバス方式
		教育・学校心理学	(概要)本授業では、学校教育システムにおける臨床心理学的支援の理論や実践について、スクールカウンセラー、教師、保護者、地域の役割、連携、具体的支援方法など、具体的事例を交えながら考察する。また、不登校、いじめを始めとする、学校における具体的諸問題への対応についても検討する。	オムニバス方式
		司法・犯罪心理学	(概要)犯罪の準備状態、犯罪の発生メカニズム、犯罪の影響と解決のための手法、加害者の処遇などについて最近の動向をふまえて概観し、加害者と被害者の支援のあり方について学ぶ。	オムニバス方式

心理学基礎科目	研究法	心理学研究法	人間の心の働きは直接捉えることができないため、科学的に研究することが非常に難しいが、さまざまな工夫によって巧みに研究されてきた。どのようにして心を研究するのかといった研究法の理解は、心理学の知識の理解を深める上で極めて重要である。本授業では心の働きを科学的に研究するための基本的考え方やさまざまな方法について学ぶ。	
		心理学研究法演習	心理学の研究において、実験法や調査法などいずれの方法を用いる場合でも、得られたデータを適切な方法で統計分析することが不可欠である。本授業では、特に質的なデータの分析について体験的に学ぶ。	
		心理学統計法	心理学でよく利用される t 検定および分散分析について具体的な事例を用いながら説明する。はじめに、実験、調査を行った後に論文にまとめるための具体的な流れおよびデータの尺度と処理方法について説明する。その後、データ分析および検定方法の全般にわたる共通項について説明し、t 検定および分散分析の具体的な事例を説明する。また、相関・予測の分析についても言及する。最後に、因子分析、重回帰式および名義尺度データの処理を概説する。	
		心理学統計法演習	心理学の研究において、実験法や調査法などいずれの方法を用いる場合でも、得られたデータを適切な方法で統計分析することが不可欠である。本授業では、統計ソフトなどを用いて実際に量的なデータを扱い、心理統計の方法を身につけることを目指す。	
		心理学実験Ⅰ	この授業では実際に代表的な心理学実験を実験者・被験者・実験参加者の立場で体験します。この体験の中で、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を活用してのデータ処理や結果の解釈および考察の方法、実験レポートの書き方を学びます。これらにより、卒業研究に取り組むために必要な技能を習得していきます。	
		心理学実験Ⅱ	この授業では、心理学実験Ⅰに引き続き、実際に代表的な心理学実験を実験者・被験者・実験参加者の立場で体験します。この体験の中で、実験の計画立案、統計に関する基礎的な知識を活用してのデータ処理や結果の解釈および考察の方法、実験レポートの書き方を学びます。これらにより、卒業研究に取り組むために必要な技能を習得していきます。	
	基礎心理学	知覚・認知心理学	私たちは外界をあるがままに受け容れているのではなく、状況に応じて適切に捉えている。このような心の働きが感覚、知覚であり、心理学のたくさんの分野の中でも比較的古くから研究され、数多くの知見が蓄積されてきた。本授業では特に、視覚を中心とした五感のしくみとその発達、注意や意識とのかかわり、顔や時間の知覚といったより特異的な知覚の機能に関して学び、人間の心の働きの基礎に当たる部分を理解することを目指す。	
		学習・言語心理学	「学習とは、ある経験によって生起する比較的永続的な行動の変容である」と定義されている。理論や実験を紹介する。人間が成長する過程で、学習（経験）が意義深いこと、学習者への援助者としての周囲（応答的環境など）の配慮が大切であることへの理解を深める。また日常生活への応用として、学習の原理を活用できるように具体例を考える、発表するといった課題を出す。	
		感情・人格心理学	人格（パーソナリティ）は個人を特徴づける基本的な行動傾向で、感情と密接に関連する。本講義では、パーソナリティをとらえるための理論と、パーソナリティ形成と環境の関係について学習する。感情に関しては、感情の理論および感情が生起するメカニズムを理解し、感情が行動に及ぼす影響について知見を深める。	
		神経・生理心理学	世界との接点を持つにあたって、人間の入力から出力までのプロセスを想定し、どのような過程を経るのかを、感覚・知覚過程、記憶・思考過程、言語過程を経るに当たっての手順について、資料をもとに説明していく。	
		発達心理学	(概要)人間の発達は、生涯にわたり、質的・量的に変化していく「連続した過程」として捉えられる。また、各発達の段階には、達成すべき課題があり、それらを遂行していく過程とも捉えられる。本講では、こうした視点をふまえ、出生から死に至るまで、人生で生じる心の変化を概観する。	オムニバス方式
		生涯発達心理学Ⅰ（乳幼児期）	乳幼児期の子どもの心理について主として発達心理学の観点から学ぶ。また、学習心理学や教育心理学の基本的知識の他、学習障害などの発達障害の理解、虐待への対応など、子どもを取り巻く困難について、当事者のインタビューや最新の知見を交えて学ぶ。	
生涯発達心理学Ⅱ（児童期・青年期）	本講義では、児童期と青年期の心身の発達をライフサイクルの視点から学び、理解を深めることを目的とする。また、児童期と青年期に生じやすい心理社会的な問題と、それに対する支援方法についても紹介する。			
生涯発達心理学Ⅲ（成人期・老年期）	高齢期の身体特性・知的特性・パーソナリティーの変容を理解するとともに、認知症についての理解を深める。また、サポートネットワークの必要性を学ぶと共に、支援者としての視点について理解する。			

専門科目

心理学展開科目

ビジネス心理関係

経営組織論	この講義では、ビジネス心理関係の科目であることを念頭に、経営学の学修成果の上に経営組織に焦点を当てて、組織の基本、変遷、発展、学説などのほか、経営者のリーダーシップの重要性等について学び、専門科目である経営組織論をしっかり学び身につけることを主眼としている。地域の企業や老舗企業、さらに非営利組織についても言及する。また、講義が抽象的にならないよう、新聞や雑誌の経営関係記事、新聞社や企業のホームページを積極的に利用して具体的な企業組織を取り上げ、理論と実例の両側面から授業を展開していく。	
組織行動論	人が働く中でどのようにしたら個人のモチベーションや職務満足度は高まるのだろうか。欠勤や離職など組織にとって望ましくない態度や行動はどうして生じるのか等について、心理学や社会心理学、社会学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論である。この講義では、組織の中で人が個人として、集団としてどのような態度をとり行動するかについて、第一に、組織の中での個人のモチベーション論を、第二に指導者のリーダーシップ論を、そして、第三に、集団のなかのコンフリクトと集団的意思決定論についてその基礎概念や基本理論の学習を通じて理解を深める。	
経営戦略論	1960年代から企業の多角化が急速に進展する中、個々の事業を束ね企業の進むべき方向性を明示することが重要になってきた。このような状況下で経営学の学問分野でも経営戦略論が注目されるようになってきた。 経営戦略論とは、企業が環境変化に対応しながら企業目標を達成する方法を探求する学問である。 今日、経営戦略論は、企業活動全体に関する企業戦略論と多角化した事業分野ごとの事業戦略論に分けられる。また、理論展開としては、企業の外部環境に焦点を当てた分析型のポジショニングベースアプローチと企業内部の経営資源に焦点をあてた資源ベースアプローチに集約できる。	
色彩心理学	この講義では色彩心理学や印象やイメージに関する心理学の知見を中心に紹介する。これにより、商品開発やPR活動、プレゼンテーションにおける印象形成のメカニズムについて学ぶ。	
色彩心理学演習	この講義では「色彩心理学」に引き続き、印象的なデザインやPR方法、プレゼンテーションの工夫について演習を通して、実践的に学ぶ。	
ストレス・マネジメント論	本授業では、現代社会においてストレスの問題がどのように現れているのか、ストレス研究の成り立ち、ストレスがどのような過程を経て我々の心身に影響を及ぼすのか、認知的評価とストレスとの関係などについて理解し、さらに、呼吸法や各種のボディ・ワーク、リラクゼーション法など、様々なストレス対処法について学んでいく。	
ポジティブ心理学	ポジティブ心理学は、幸福や自己実現といった人間のポジティブな側面に注目した、心理学の新しい潮流である。本講義では、人のポジティブな側面だけでなくネガティブな側面からもアプローチすることで、自己成長していくプロセスについて理解を深めることを目的とする。	
コミュニティー心理学	コミュニティー心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視する。本講義では、コミュニティー心理学の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法について概論的に解説をしながら、臨床心理地域援助（コミュニティー援助）の実践に必要な方法を紹介する。	
マーケティング論	私たちは毎日消費行動を行っている。それに対して、企業は、どのようなモノやサービスを消費者に提供すれば良いか研究し、戦略を立てている。 マーケティングとは、ものやサービスが「売れるしくみ」を構築することである。 消費者マインドがどのような法則に従って変動し、企業はそれをどう捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れ解説する。講義では消費者行動の基礎的な知識と、国内外における企業のマーケティング戦略についても学ぶ。	
行動経済学	行動経済学とは、人間がかならずしも合理的には行動しないことに着目し、伝統的な経済学ではうまく説明できなかった社会現象や経済行動を、人間行動を観察することで実証的にとらえようとする新たな経済学である。この講義ではゲーム理論も紹介しながら、人間の意思決定やその結果である社会現象について理解を深める。	
マスメディア論	メディア社会・心理学の分野には議題設定理論、革新・ニュース伝播理論、沈黙の螺旋理論、キャンペーン説得法、など多くの理論がある。メディアが人々の心に持つイメージを形成するプロセスやその結果である社会現象を理解し、メディアリテラシーとは何かについても考える。	

公認心理師の職責	この講義では公認心理師法に基づき、公認心理師の職責についての理解を深める。また、公認心理師としての倫理についても学習する。	オムニバス方式
臨床心理学概論	(概要)この講義では、まず臨床心理学の歴史を取り上げ、臨床心理学の成り立ちについて学習する。また、①精神疾患、②臨床心理査定、③心理療法——臨床心理面接、④臨床心理学的地域支援の主に4点について概説する。具体的には、心の健康の回復や増進に向けて、どのような臨床領域があるのか、臨床心理学はどのような学問的性格があるのか、臨床心理学の独自性は何か、どのような方法論があるのかなど、臨床心理学における代表的な理論を取り上げながら事例や研究を交えて解説する。	オムニバス方式
社会・集団・家族心理学	(概要)社会的行動の個人的側面と集団的側面を中心に概観することにより、人間の社会的行動のメカニズムについて学ぶ。	オムニバス方式
障害者・障害児心理学	(概要)発達心理学の基礎理解をベースにして、発達障害を理解し、将来の心理支援に役立てられるようにする。発達障害を単なる知識だけでなく、個別の事例、治療実践を知ることによって、より具体的な支援のイメージを掴む。障害の理解と考察を深めるため、現実の問題や支援方法について各自で調べ、発表してもらおう。随時、各々の最も興味のある領域を選び、交代で発表する。	オムニバス方式
心理的アセスメント	心理的アセスメントの方法は多岐にわたり、支援への動機付け、問題の明確化、支援目標の設定、支援を進めていくうえで必要なラポール形成など、支援的な関わり的手段としても活用できる。この講義では心理的アセスメントの目的及び倫理、観点及び展開について理解したうえで、観察、面接及び心理検査等の心理的アセスメント方法について理解する。	
心理学的支援法	(概要)カウンセリングは理論と実践から成る、こころの支援のための方法である。本講義では主として来談者中心療法の立場から、実際の相談場面を想定した演習形式でカウンセリングとカウンセリングの基本技法について考えていく。	オムニバス方式
産業・組織心理学	産業・組織心理学は、事業所における組織経営や産業活動の効率化や、人々が快適で健康に働くためにはどうすればよいかについての心理学領域である。そこでこの授業では、組織における人の行動や職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援について、これまでの心理学研究の成果をふまえて考え、卒業後の社会活動において活用できる「心理学リテラシー」の獲得を目標とする。	
精神疾患とその治療	日本における精神科医療の歴史を踏まえ、代表的な精神疾患とその治療及びリハビリテーションについて理解を深める。また、支援のあり方、連携について、各専門職の立場から事例などを通し、臨床的理解を進めるとともに各役割について理解する。	
関係行政論	公認心理師に係る諸制度について、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野、の5つの分野を重点的に取り上げて理解する。	
チーム医療論	(概要)チーム医療とは、一人の患者に複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して、治療やケアに当たることである。病院では、様々な職種メディカルスタッフが働いており、こうした異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで、入院中や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上、患者の人生観を尊重した療養の実現をサポートする。患者本人とご家族もチームのメンバーであるとされるチーム医療について理解を深める。	オムニバス方式
発達障害児支援論	発達障害を抱える子どもの支援について理解する。具体的には、本人及び家族が置かれている状況について理解し、その支援方法について考える。また、心理検査によるアセスメントの方法や支援へと繋げる手続きについて、基礎的な事柄を解説する。	オムニバス方式
心理検査法演習	「心理的アセスメント」に引き続き、これらの心理的アセスメントを実施し、結果について記録と報告を作成する演習を行う。	
集団心理療法演習Ⅰ	この演習では、集団心理療法について実際に体験することで、自己理解、自己受容、他者理解、他者受容、他者との共同の在り方、ファシリテーションの方法などを学んでいく。	
集団心理療法演習Ⅱ	この演習では、演習Ⅰに引き続き、集団心理療法について実際に体験することで、自己理解、自己受容、他者理解、他者受容、他者との共同の在り方、ファシリテーションの方法などを学んでいく。	
心理演習Ⅰ	この演習Ⅰでは、人間関係、人間の心理の理解や関わりに大切な技法や理論の実際について、演習を行う。基礎的な対人関係訓練や自他の気づき、描画療法や精神科クリニックの実際、認知行動療法の基礎などについて、ワークなど実習を通して体験的に学ぶ。これにより臨床心理学を自分の生活に活かす視点を獲得する。	

心理学 展開科目	公認心理師関係	心理演習Ⅱ	認知行動療法について、実際の生活場面で生じる怒りをテーマにしたトラブルを中心に、その認知の問題、解決方法の問題等、自己の傾向を振り返り理解を深めていく。自己の傾向を振り返り、グループでのディスカッションを通して、自らが気づいていない自己への理解を深めると同時に、他者の気づきへの支援も行う。表現療法としての箱庭療法を体験的に理解する。これらの体験を通して心理的支援について理解を深めていく。	
		心理実習Ⅰ	本実習は、公認心理師として従事するために不可欠な、臨床心理に関する実践的な内容を学んでいく。特に心理臨床の主要領域である、医療・福祉・教育・司法/矯正領域の現場で実習を行い、心の専門的支援の実践に触れる。実習の実施前に各領域および各施設の現状について事前調査、学習を行い実習に臨む。実習後は、学びのまとめとしてレポートの提出を求める。 なお、この実習は、公認心理師コースの学生の必修科目であるが、ビジネス心理コースの学生は履修できないこととする。	
		心理実習Ⅱ	心理実習Ⅰに引き続き、本実習は、公認心理師として従事するために不可欠な、臨床心理に関する実践的な内容を学んでいく。特に心理臨床の主要領域である、医療・福祉・教育・司法/矯正領域の複数の現場で実習を行うことで、それぞれの領域における心理職の実際や連携についての理解を深め、自己の適性についても理解を深めることを目的とする。なお、この実習は公認心理師コースの学生の必修科目であるが、ビジネス心理コースの学生は履修できないこととする。	
専門科目	ゼミナール (卒業研究を含む)	ビジネス心理コース演習Ⅰ	ビジネス心理コースのゼミナールとして開講する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。	
		ビジネス心理コース演習Ⅱ	演習Ⅰに引き続いて、各コースの教員が担当する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。	
		ビジネス心理コース演習Ⅲ	ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。	
		ビジネス心理コース演習Ⅳ	演習Ⅲに引き続き、ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。	
		ビジネス心理コース演習Ⅴ	ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。	
		ビジネス心理コース演習Ⅵ	演習Ⅴに引き続き、ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。	
		公認心理師コース演習Ⅰ	公認心理師コースのゼミナールとして開講する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。	
		公認心理師コース演習Ⅱ	演習Ⅰに引き続いて、各コースの教員が担当する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。	
		公認心理師コース演習Ⅲ	公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。	
		公認心理師コース演習Ⅳ	演習Ⅲに引き続き、公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。	
		公認心理師コース演習Ⅴ	公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。	
		公認心理師コース演習Ⅵ	演習Ⅴに引き続き、公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。	
		卒業研究	大学4年間の総まとめとして各コース別に学んだ専門分野の中から、自分が決定したテーマに取り組む。担当教員のもとでさらに資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。	